

(5) シャカシメジ (シメジ科シメジ属)

観察日：平成25年10月26日

場所：長崎県民の森・おしどり淵周辺

10月20日、長崎県民の森管理事務所との共催で「野生きのこ観察会」が開かれた時、シャカシメジの幼菌を2個体観察した。その後の生長した写真を撮るために一週間後訪れた。少し傘が開いた状態だったが、新たに2個体の幼菌が発生していた。まだ1～2週間は楽しめそうだ。さすがに、12月7日に来たときは生えてなかった。似たきのこに、ニオウシメジがある。



・シャカシメジ (シメジ科シメジ属)

コナラ・クヌギなどとマツとの混生林に発生。傘は径1.5～5cm、表面は暗灰褐色のち灰色～灰褐色となる。ひだは密。柄は根もとで多数が合着し塊茎状の根株となる。

・ニオウシメジ (キシメジ科ニオウシメジ属)

畑地、路傍などに発生。きわめて大形で、傘は茎12～32cm、表面はベージュ～象牙色、ほぼ平滑。ひだは密。柄は下方に向かって太まり、基部で互いに結合してシメジ状の集団となる。



(6) ハリガネマメザヤタケ(仮称)? (クロサイワイタケ科クロサイワイタケ属)

観察日：平成25年6月14日

場所：長崎市小ヶ倉水源地

広葉樹の枯れ枝から発生している。当初、名前がわからず、ホソツクシタケに似ているので、クロサイワイタケ科で検索していると、「中標津で見つけた植物」のウェブページに掲載されているハリガネマメザヤタケにそっくりだった。詳しいデータは不明である。



(7) ハイカグラテングタケ (テングタケ科テングタケ属)

観察日：平成25年7月27日

場所：長崎県民の森

夏の代表的な大形きのこであるが、この姿を見ると、どうにかして子孫を残そうとする生命力に感動せざるをえない。

途中まで、土を崩しながら生長していったが、最後に力尽き、柄の上部が折れてしまった。しかし、下部は折れずにもちこたえものだ。それでも傘を広げることができ、胞子を拡散できるので、種としての役目を果たせて良かったと思う。「あきらめずに、最後までようがんばった!」と褒めたいきのこである。

